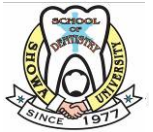




発行責任者: 歯学部長 宮崎 隆, 編集責任者: 広報委員長 井上 富雄
〒142-8555 東京都品川区旗の台1-5-8 TEL: 03-3784-8000
ホームページ: <http://www.showa-u.ac.jp>



平成 21年度昭和大学卒業式・ 学位記伝達式開催される 歯学部長 宮崎 隆

春の陽気に恵まれた去る3月18日(木)に、五反田の「ゆうぼうとホール」において平成21年度昭和大学卒業式が執り行われました。今年は薬学部が6年制に移行中で、4年制の卒業生が18名だけでしたが、医・歯・保健医療学部と合わせて総勢402名の卒業生と



大勢の保護者で、会場は例年どおり華やかな雰囲気になりました。式は午前10時に昭和大学管弦楽団の演奏で厳かな雰囲気の中に開会しました。各学部の総代に細山田学長から学位記が授与されました。歯学部94名の総代は濱田真友子さんでした。引き続き学長から「昭和大学において最高の教育を受けたことを誇りに持って各分野の医療人として患者の健康のために奉仕し、社会還元するように」と告辞がありました。小口理事長からは「それぞれの立場で評価を高めて、25年後にホームカミングディで再会を楽しみにしよう」と祝辞がありました。各種表彰に移り、歯学部関係では上條賞を濱田真友子さん、同窓会賞を高須玲美さん、宮崎裕明君、大森美由紀さん、そして上條旗ヶ岡賞は柔道部の越智英行君が受賞しました。四ノ宮父兄会長から記念品贈呈があり、歯学部の田中準一君が卒業生を代表して謝辞を述べました。グリークラブのリードで校歌を斉唱し、最後に応援指導部による卒業生へのエールがあり、会場内が一気に盛り上がり11時半に閉会しました。

引き続き各学部に分かれて午後12時半から、歯学部は旗の台校舎4号館500号室において、学位記伝達式が執り行われました。宮崎歯学部長、岡野病院院長、飯島同窓会長の挨拶に引き続き、来賓として、学生が選択実習でお世話になった天津医科大学の高平学部長が挨拶をしました。卒業生全員に宮崎歯学部長から学位記が授与され、引き続き学生表彰、

記念品贈呈および花束贈呈を行い午後1時半に閉式しました。

学生表彰者は以下の通りです。歯科医学生賞: 中塚紗矢音, 星野花苗, 峯村英一郎, デンププライ賞: 丸山範子, 奥田文俊, ウィップミックス賞: 澤亜矢子(敬称略) 卒業生代表の奥田文俊君から大学に記念品としてノートパソコンが贈呈されました。卒業生の前途を祝し、今後の活躍を祈念します。

謝恩会が行われました

歯科薬理学教室 山田庄司

3月18日(木)は午前中の厳かな卒業式、大学に戻っての学位記伝達式に続いて、午後6時から帝国ホテルにて、歯学部第28期卒業生による謝恩会が開催されました。歯学部の先生方だけでなく、理事長・学長先生をはじめ、富士吉田でお世話になった懐かしい先生方や寮監先生にもご出席いただき、華やかで和気あいあいとした雰囲気のすばらしい謝恩会でした。来賓の方々の祝辞・乾杯に続き第1部の祝宴が始まりました。壇上に並んだ先生方への花束贈呈が行われる頃には、会場の至る所で先生を囲んで談笑する卒業生やご父兄の姿が見受けられました。

2部になると、他学部の学生も加わったダンシングチームによるブレイクダンスや恒例となった「学生による先生ランキング」が行われ、名誉あるランキング第1位を勝ち取った先生が壇上で学生から賞状を授与されるたびに会場には大きな拍手と共に驚きや納得の歓声が上がりました。先生方は記念撮影の後、学生や父兄の拍手喝采の中、学生たちが作るトンネルをくぐって会場を後にしました。昭和大学歯学部を卒業した学生諸君がそれぞれの場でおおいに活躍されることを心より祈念いたします。



大学院歯学研究科修了式が挙行される

大学院歯学研究科運営委員長 上條竜太郎

去る3月25日に旗の台キャンパス1号館6階会議室において、平成21年度大学院歯学研究科修了式が執り行われました。

細山田明義学長より修了生一人一人に学位記が授与され、学長告示、宮崎隆歯学研究科長の挨拶の後、閉式となり、引き続き入院棟17階タワーレストラン昭和で懇親会が開催されました。懇親会では宮崎歯学研究科長の挨拶に引き続き、修了生一人一人から大学院生時代の思い出や、今後の抱負をお話いただき、和やかな雰囲気の中に閉会となりました。なお、本年度の歯学研究科修了生は19名でした。今後のご活躍をお祈り申し上げます。



歯学部コンピテンシーが制定されました

歯科医学教育推進室 片岡竜太

本学では教員は担当する教科において、コアカリキュラムに準拠した一般目標と行動目標を設定して、学生に対する教育をおこなっています。知識における成果は進級試験、卒業試験のみならず、全国的に実施されるCBT、国家試験の成績として示されています。技能における評価は臨床実習前に全国的に実施されるOSCEで評価されますが、卒業前の技能・態度評価は各科が個別に行っているのが現状です。教員は各教科の教育の充実を図り、その成果をみることはできませんが、教育を受けた学生が卒業時に何ができるようになり、臨床研修も含めてどのような歯科医師になっていくのか今まで十分に把握していたとは言い難いのが現状です。

平成21年度夏のワークショップには、教授会メンバーと実習指導責任者が参加し、ヨーロッパにおける歯学部のコンピテンシーを日本の歯学教育と比較しながら討論しました。コンピテンシーとは、歯科医療現場で日常的に遭遇する状況に対応するために、卒業および臨床研修を控えた学生に求められる歯科医師としての基本的な態度や知識および技能のことです。本ワークショップでは本学の教育の全体像を把握し、卒業の要件を具現化するためのコンピテンシーについて討論することができました。さらに「昭和大学歯学部卒業生のあるべき姿」をともに考え、「歯学部のコンピテンシー」の原案を作ることができました。このワークショップのプロダクトを基に、ワーキンググループで検討を加え、教授会における討議を経て「昭和大学歯学部卒業時のコンピテンシー」を制定しました。

I. プロフェッショナルリズム、II. コミュニケーションとチーム医療、III. 基礎医学・歯学の知識習得と臨床

への応用(生涯学習)、IV. 医療面接と診察、V. 診断と治療、VI. ヘルスプロモーションの6つの分野から構成されており、全体をA4用紙2枚にまとめ、一覧できるようにしました。たとえば「II. コミュニケーションとチーム医療の分野のコンピテンシー」は、チーム医療ができる医療人を育てる昭和大学の教育理念および歯学部の教育目標を組み入れ「1. 他の医療人、スタッフ、患者、地域住民と会話や書面でコミュニケーションをとることができる。患者や家族、地域住民の生活や価値観を知り、良好な人間関係を構築することができる。2. チーム医療の重要性を理解し、実践できる。」としました。これを基に技能・態度に知識を含めた臨床能力が卒業の要件に到達しているかどうか評価する「第1回臨床実習終了時のOSCE(OSCA)」が3月の第1週に実施され、海外の教員の外部評価も受け「学部統合OSCA」と高い評価を受けました。

今回制定した「歯学部コンピテンシー」と従来から用いている「一般目標と行動目標」を併用することにより、昭和大学歯学部教育の全体像とそれぞれの「コース、ユニット」の関連を把握した上で、教育の充実を図ることにより卒業生は質が保証され、自信を持って卒業できることを確信しております。

モンゴル健康科学大学歯学部との協定

が結ばれました

歯学部長 宮崎 隆

去る3月2日、モンゴル健康科学大学歯学部のBazar Amarsaikhan学部長を本学にお迎えし、同大学と本学との学部間交流プログラムの締結を行いました。Amarsaikhan先生は、同国が社会主義の時代にキューバの大学で歯学を勉強し、民主化後に日本に留学して専門の歯科捕綴学だけでなく日本の歯学教育全般を学び、帰国後日本をモデルにして、モンゴルにおける新しい歯学部作りを進めてきた指導者です。本学ではすでに、向井教授が小児歯科のSoyolmaa先生を引き受けて、障害児の歯科治療について指導した経緯があります。

同日の夕方には歯科病院で、交流プログラム締結記念講演として、「モンゴルにおける歯科事情について」お話がありました。モンゴルはチングスカンで有名な遊牧民族ですが、近年は首都のウランバートルを中心に都市部への人口集中が進み、齲蝕が急増しつつあるそうで、今から予防歯科や障害者歯科に力をいれていくそうです。本学として貢献できることが多いと実感しました。モンゴルについては相撲では知名度が高いですが、モンゴルの歴史や文化についても紹介があり、参加者一同大変に興味をそそられました。今後学生を含めて交流を推進していく予定です。



D5臨床実習終了時OSCEが行われました

実施委員長 山本松男

平成22年3月1日から4日まで(予備日5日), D5学生を対象として, 臨床実習終了時OSCEを実施しました. 本学部は学部学生が卒業時に身につけるべき臨床技能・態度・資質などを総合的に評価するために, OSCE形式をベースに昭大オリジナルの方法を検討し準備してきました. 昨夏の歯学部ワークショップで, 歯学部教育目標に照らし学生が卒業時に獲得すべき要件を, プロフェッショナルリズム, コミュニケーションとチーム医療, 基礎医学・歯学の知識習得と臨床応用(生涯学習), 医療面接と診察, 診断と治療, ヘルスプロモーションとし, 「コンピテンシー」としてまとめました. 本OSCEはその到達度の評価をするものです.

内容はA: 診察, B: 医療面接, C: 診療計画立案, D: 臨床技能の4ブロックで, 11課題としました. 臨床実習前の共用試験OSCEに比較して, 知識の統合とそれに立脚した診療能力, 参加型実習を通して身に付くべきコミュニケーション能力, 治療計画立案能力, 治療経過にそった臨床判断能力等を評価しました. 動画を利用した患者観察や, 患者型ロボット(オペレーターがパネル操作をすることで患者同様の応答をする)の応用などは今後さらなる発展が期待される課題となりました. 技術, 知識の評価だけではなく, プロとしての態度やコミュニケーション等, 従来の方法では評価しにくかった部分も明確にでき, 最終日には若干名の学生に対して総合的な再指導も行いました.



模擬患者に医療面接を行う受験者

実施にあたって香港大学, アデレード大学より専門家を招聘し, 外部評価を受けました. 広い領域をまたぐ複合的な内容を評価する方法であることから試験(examination)ではなくintegrated OSCA (integrated Objective Structured Clinical Assessment)と呼称するのがふさわしいとの提言をいただきました.



患者型ロボットで窩洞形成を行う受験者

共用試験 OSCE が実施されました

OSCE委員会 委員長 菅沼岳史

2月21日(日)に歯学部4年生を対象とする共用試験OSCEが, 歯科病院において178名のスタッフ(教員147名, 職員7名, SP18名, 機構派遣外部評価者6名)で実施され, 99名の受験生が受験しました. 今回のOSCEで大きく変更になった点は, 外部評価者が少なくなったことです. その結果, 内部評価者の先生方には不慣れな課題の評価をお願いするなど負担が大きくなったわけですが, 大きなトラブルもなく無事終了することができました. 一方, ステーション内誘導, 集計, 回収を担当された先生方には, タイムなスケジュールで休憩時間も十分にとれずご迷惑をおかけしました. 今回の反省点は次年度に向けて検討したいと思います. 週末の貴重な時間を多くの教職員の方々にご協力を頂きありがとうございました.

選抜Ⅱ期入試が実施されました

入試常任委員 五十嵐 武

平成22年度歯学部Ⅱ期入試が2月28日(日曜日)に実施されました. 今回の入学試験では新たにセンター利用Ⅱ期試験, 編入学Ⅱ期試験を実施しました. 選抜Ⅱ期試験では募集人員6名に対して72名(12倍)の志願者があり, 昨年の同試験より12名の増加となりました. また, 新設したセンター利用Ⅱ期試験では12名の志願者が, 編入学Ⅱ期試験では7名の志願者がありました. 合格発表は3月2日(火曜日)に行われ, 選抜Ⅱ期試験で6名(男子1名, 女子5名), センター利用Ⅱ期試験で1名(女子1名), 編入学Ⅱ期試験で3名(男子1名, 女子2名)の合格者を発表しました. 全国的に歯学部志願者数が年々減少している中で今回の入試で志願者数が増加したことは, 皆様の広報活動により, 昭和大学歯学部の特徴(魅力)がアピールできた結果と思われる. 以上をもちまして, 平成22年度入試が無事終了しました. ご協力いただいた職員の皆様, 誠にありがとうございました.

試験	募集人員	出願期間	試験日	合格発表
推薦	27名	H21.10.26 ~11.4	H21.11.8	H21.11.10
センターⅠ期	約8名	H22.1.4 ~1.22	H22.1.30	H22.2.6
センターⅡ期	約2名	H22.2.8 ~2.23	H22.2.28	H22.3.2
選抜Ⅰ期	50名	H22.1.4 ~1.22	H22.1.30	H22.2.2
選抜Ⅱ期	約6名	H22.2.8 ~2.23	H22.2.28	H22.3.2
編入Ⅰ期	若干名	H21.10.26 ~11.4	H21.11.8	H21.11.1
編入Ⅱ期	若干名	H22.2.8 ~2.23	H22.2.28	H22.3.2

**平成21年度昭和大学歯学部ハイテク・
リサーチ・センター研究成果発表会開催される**
歯学部研究活動委員会委員長 上條竜太郎

「ハイテク・リサーチ・センター整備事業」は平成17年度から研究代表者である宮崎隆研究科長のもと、「顎口腔機能障害の発症機序究明とその機能回復に関する先進的研究」を推進して参りました。

今年度は本事業の最終年度にあたり、最終報告会となりましたが、特別講演や各研究代表者のポスター討論では、例年以上に活発な質疑応答が行われ、大変有意義な会となりました。

第1部の特別講演1では、東北大学医学部眼科学教室教授の西田幸二先生をお招きし、「角膜の再生医療」というタイトルで、西田先生が世界で初めて開発された自家培養角膜上皮シートの基礎研究から、実際に上皮移植する臨床成績まで、非常にわかりやすく講演していただきました。また、特別講演2では、慶應義塾大学医学部形成外科学教室教授の中島龍夫先生が「口唇裂・口蓋裂の総合治療」と題し、口唇口蓋裂の治療の歴史や、慶應大学病院で行われている治療体系、中島先生が改良された審美性を重視した治療法など、歯科の観点からも興味深い内容を紹介してくださいました。

本年度で本事業は終了致しますが、この事業を機に各研究室・各研究者が密接に連携し、歯学部全体の研究が更なる推進に繋がることを期待しております。最後になりましたが、会の運営をご担当くださいました歯科補綴学教室、口腔生化学教室、口腔生理学教室の皆様、ポスター討論で発表してくださいました研究分担者の先生方、会にご参加くださいました皆様の御協力に、この場をお借りして御礼申し上げます。

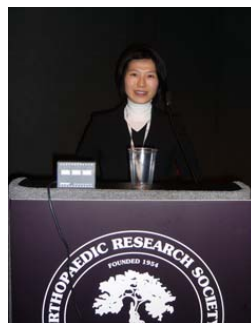


第56回整形外科学会に参加しました
口腔病理学教室 安原理佳

2010年3月6日から9日にかけて、米国ルイジアナ州ニューオーリンズで開催された第56回 ORS (Orthopaedic Research Society) Annual Meetingに参加しました。ORSはアメリカ整形外科学会(AAOS)に先立って開催され、整形外科学と、それに関連する基礎研究の発表の場として、多くの臨床医、研究者

が参加します。私は昨年10月に米国ペンシルバニア州フィラデルフィアにあるThomas Jefferson UniversityのOrthopaedic Research で2年間の研究留学を終え、帰国しました。

今年のORSでは、留学先での研究テーマ”Proliferation and Differentiation in Articular Cartilage Superficial Layer Cells Are Regulated by beta-catenin Signaling” を口演する機会をいただきました。発表後には、会場内から活発なディスカッションが行われ、大変有意義な経験ができました。ラボのメンバーと再会しJazzの発祥地で楽しいひとときを過ごしました。



昇任・採用

広報委員長 井上 富雄

鈴木 大 助教(歯学部長直屬)

診療統計(平成22年2月分)

医事課長 久米 徳明

	患者数	1日平均	前月1日平均	前年1日平均
外来患者	15,085	655.9	751.0	732.4
入院患者	496	17.7	12.9	13.3

行事予定

広報委員長 井上 富雄

4月 2日(金):進級式・白衣授与式(D5),
D5・D6健康診断
4月 3日(土):大学院入学式
4月12日(月):入学式
5月12日(月):D2健康診断
5月13日(火):D3健康診断
5月14日(水):D4健康診

編集後記

歯科補綴学教室 樋口大輔

季節の変わり目で気温の差が大きく、天気も安定しないためか、体調を崩す患者さんも多いようです。みなさんはいかがでしょう。

新年度の準備に大変お忙しい中、原稿をご執筆下さった先生方に心より感謝いたします。